

松阪市子ども支援研究センターだより

E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>

松阪教育支援センター「鈴の森教室 1・2」TEL 26-1900 FAX 26-1901 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp
そだちの丘 育ちサポート係 TEL 30-4410 FAX 30-4433 E-mail: sodachi.sec@matsusaka.ed.jp

教育が世界を変える・・・

‘マララ・ユフスザイというパキスタンの女性をご存知でしょうか。彼女は、現在 20 歳で、2014 年に最年少でノーベル平和賞を受賞しました。

11 歳のころからインターネットを通じて、タリバンの女性教育に対する弾圧の実情を訴えてきていましたが、2012 年に、スクールバスに乗車中、タリバンの武装グループに襲撃され重傷を負ったニュースは、みなさんも記憶にあるのではないのでしょうか。

今年 4 月には、最年少で、国連平和大使に任命され、現在は、オックスフォード大学で哲学と政治・経済学を専攻する学生であり、また、人権活動家として世界各地で活躍中です。

世界各地での紛争は現在でも絶え間なく続き、子どもたちの教育権の保障はもとより、多くの小さな命が犠牲になっています。4 年前、私は、‘I am Malala’ (2012 年 penguin book 出版) という本を店頭で手に取り立ち読みすると、そのまま一気に本書を読みたくなり、即購入しました。その中で、今でも心に残っている文があります。みなさんの中にも、この言葉はニュース等で見聞きされ、記憶にあるのではないのでしょうか。その文を紹介します。

‘One child, one teacher, one book, one pen can change the world.’ 「一人の子ども、一人の先生、一冊の本、一本のペン、それで世界は変えられるのです。」

‘Education is education. We should learn everything and then choose which path to follow. Education is neither Eastern nor Western, it is human.’ 「教育は教育です。私たちは、あらゆることを学び、そのうえで、どんな道を歩むか選択すべきなのです。教育には、東洋も西洋もありません。それがヒューマンなのです。」

これは、ノーベル平和賞授賞式における彼女のスピーチにもある言葉です。

教育の果たす役割がどれほど大きなものか、マララさんの言葉から感じ取れます。私たち教職員はその任務を担っています。世界の各地で、今でも紛争が繰り返し起こっています。日本では、子どもが戦争や紛争に巻き込まれることなく、教育がすべての子どもたちに行われていることに幸せを感じるとともに、その果たす役割の重責を感じ、これからも充実した教育が行われるように努力していかねばなりません。教育は国づくりの大きな柱です。

—教育は世界を変えるのですから—

(小筆 邦昭)



<職員異動のお知らせ>

森田 真弓 (もりた まゆみ) が、9月1日付けで、子ども発達総合支援センター 育ちサポート係主任兼子ども支援研究センター主任として、当センターの所属となりました。

通常の勤務は、そだちの丘で行っておりますので連絡が必要な際は、そだちの丘までお願いします。

研修講座報告その2～研修講座の様子をご紹介します！～

B-19 乳幼児教育Ⅰ「いつだって子どもがいちばん」

講師 三浦 伸也 先生
(しんちゃん)



三浦先生の実体験や実践に基づいたお話に、会場の一体感が生まれ、笑いあり涙ありの心を揺さぶられる講座となりました。

受講者からは「早く子どもたちに会いたい。」「実践してみたい。」との声がありました。

B-5 外国人児童生徒教育「支え合って人、認め合って仲間」

講師 伊藤 信雄 先生

外国につながるのある日本語指導が必要な児童生徒に対して、一文の中に「主語と述語は一つずつにする。」「分かりにくい言葉は、児童生徒がよく知っている言葉に置き換える。」など“やさしい日本語”を使うことの必要性を教えていただきました。



B-17 特別支援教育Ⅰ「障害者差別解消法と合理的配慮」

講師 志村 浩二 先生



法律としてスタートしていることが各校・園の具体的な場面とどう結びつくのか、具体的な事例とロールプレイを通して知ることができました。「説得より納得」「建設的対話」の言葉から、これまでの教育・保育、保護者との連携について振り返る機会となりました。

B-6 人権教育Ⅰ「今日の部落問題～インターネット上の事象から考える～」

講師 中村 尚生 先生

インターネット上で実際に起きている部落差別の現状や差別が拡散していくことの危険性について教えていただきました。後半のグループワークでは、「まずは、現状認識から始めないといけない。」「人権教育について、もっと学校全体で取り組んでいく必要がある。」といった意見が出されていました。



B-15 危機管理「家庭と連携し、学校全体で行う情報モラル教育」

講師 長谷川 元洋 先生



新学習指導要領に示された「深い学び」につながる情報モラル教育について教えていただきました。後半のワークショップでは、スマートフォンやインターネットに関わるトラブル事例から、原因を考えたり学校や家庭での予防対策を考えたりしました。